

## 編集後記

- ▼今回の『西南学院アーカイヴズ』第3号では、ボリュームが多かった原稿が集まった。編集者としては、嬉しい悲鳴である。ページ数も多いことから前倒して編集作業を行ったが、執筆者の皆さんには、短い日数で忙しい思いをさせたのではないかと心苦しく思っている。
- ▼私事で恐縮だが、この3月で職を離れることになった。2007年の『西南学院史紀要』から『西南学院アーカイヴズ』まで、18年間編集にあたってきたことは、苦しくもあり、いい思い出でもあった。そもそも『紀要』は、『西南学院百年史』の準備のための冊子であったが、その役割を終え、2023年に『西南学院アーカイヴズ』とリニューアルして刊行された。
- ▼『西南学院アーカイヴズ』の創刊号では「アーカイヴズをどのような刊行物にするか」という座談会を企画し、その方向性を探った。当時、編集委員長で座談会の司会を務められた金丸先生は、「良いことばかりではなく、光と影、等身大で西南学院の歴史を捉えることは、学院史資料センターだけだと自負しているので、そのような視点を持った『西南学院アーカイヴズ』にしていければと思っている」と結ばれた。
- ▼また同じ座談会で、ある委員が「厳しい媒体になるように」と語られた。「『過去』を正確に綴ることはもちろん大事ですが、それと同じくらい『現在』を記録し、検証しておくことこそが、『未来』の豊かさに大きくかかわっていくのではないかと思います。そういう意味で『アーカイヴズ』は、何事に対しても付度や自己規制や妥協を決して行わない、言わば厳しい雑誌、媒体であってほしいと思います」という願いを込めて、その言葉が使われた。
- ▼『アーカイヴズ』も第3号を数えたが、先の委員が言う「厳しい媒体」になりえたのだろうか。いろんな問題があり、それら一つひとつの判断が、西南学院らしい答えになっていると信じていたい。そんな問題が山積みの中で、博物館の移転問題や建学の精神の浸透度などのテーマを取り上げたことで、少しは近づいたのではないかと思います。これからもそのような「厳しい媒体」という視点を持って進んでいく、『西南学院アーカイヴズ』であってほしいと願っている。(世)

2025年3月3日 印刷

2025年3月13日 発行

## 西南学院アーカイヴズ 第3号

編 集 西南学院史資料センター

発 行 学校法人西南学院

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

---

印 刷 株式会社キャンパスサポート西南

〒814-0006 福岡市早良区百道1丁目14番29号